

聖籠町の環境

令和5年度版
(令和4年度内容)

聖籠町 生活環境課

1 町の概要

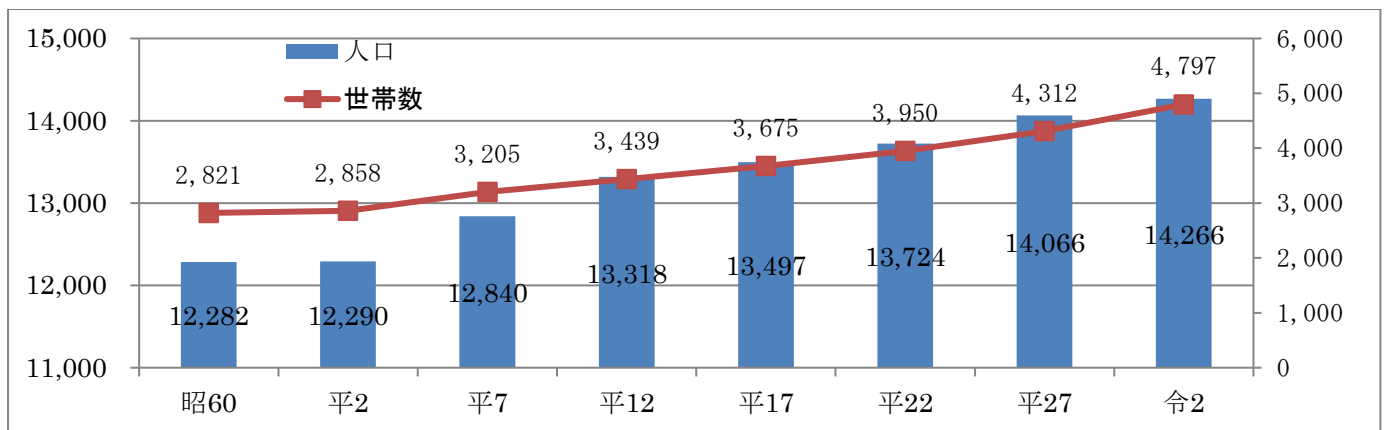
(1) 地勢

面積	広ぼう		周囲	位置	
	東西	南北		緯度	経度
37.58 km ²	8.1 km	9.5 km	46.0 km	北緯 37° 56′ ～38° 01′	東経 139° 13′ ～139° 19′

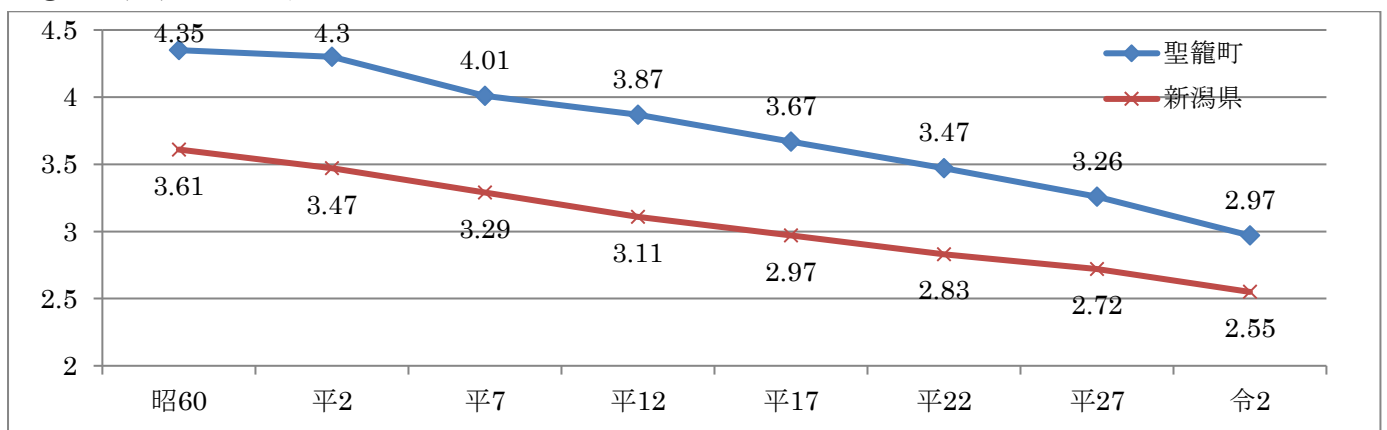
区		分	面積 (ha)	比率 (%)
都市計画区域 3,758.0ha	市街化区域 982.1ha	第 1 種住居地域	140.9	14.4
		近隣商業地域	8.0	0.8
		準工業地域	7.2	0.7
		工業地域	621.0	63.2
		工業専用地域	205.0	20.9
		計	982.1	100.0
	市街化調整区域		2,775.9	—

(2) 人口（国勢調査結果）

① 人口と世帯数



② 一世帯当たりの人口



2 大気環境（令和4年度 大気汚染測定結果報告（新潟県環境対策課）から抜粋）

(1) 公害監視局設置状況

聖籠町内では、県の設置した公害監視局（杉谷内局）にて、大気汚染物質の測定を行っています。

なお、次第浜局につきましては、令和2年度より施設老朽化のため測定を廃止しております。

(○…測定している項目)

測定局名	住所	測定項目			
		二酸化硫黄 (SO ₂)	二酸化窒素 (NO ₂)	光化学オキシダント (O _x)	浮遊粒子状物質 (SPM)
杉谷内	藤寄 2800-8 (新発田川放水路脇)	○	○	○	○

(2) 基準値

項目	環境基準	根拠法令
ア 二酸化硫黄	・ 長期的評価 日平均値の2%除外値 0.04ppm 以下、かつ、日平均値が 0.04ppm を超える日が2日以上連続しないこと ・ 短期的評価 1時間値 0.1ppm 以下、かつ、日平均値 0.04ppm 以下	環境基本法
イ 二酸化窒素	日平均値の年間98%値が 0.04～0.06ppm のゾーン内又はそれ以下	環境基本法
ウ 光化学オキシダント	1時間値 0.06ppm 以下	環境基本法
エ 浮遊粒子状物質	・ 長期的評価 日平均値の2%除外値 0.10mg/m³ を超える日が2日以上連続しないこと ・ 短期的評価 日平均値 0.10mg/m³ 以下、かつ、1時間値 0.20mg/m³ 以下	環境基本法

(3) 測定結果

① 年間値

ア 二酸化硫黄

局名	有効測定 日数	測定時間	年平均値	1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数 とその割合		日 平均値が 0.04ppm を超えた日数 とその割合		1 時間値 の最高値	日 平均値 の 2 % 除外値	日平均値が 0.04ppm を 超えた日が 2 日以上連 続したこと の有無	環境基準の 長期的評価 による日平 均値が 0.04ppm を 超えた日数
	日	時間	ppm	時間	%	日	%	ppm	ppm	有×・無○	日
杉谷内	364	8,646	0.000	0	0.0	0	0.0	0.005	0.001	○	0

イ 一酸化窒素、二酸化窒素及び窒素酸化物

局名	一酸化窒素 (NO)					二酸化窒素 (NO ₂)												窒素酸化物 (NO+NO ₂)							
	有効測定 日数	測定時間	年平均値	1 時間値 の最高値	日平均値の 年間 98% 値	有効測定 日数	測定時間	年平均値	1 時間値の 最高値	1 時間値が 0.2ppm を超えた 時間数とその割合		1 時間値が 0.1ppm 以上 0.2ppm 以下 の時間数と その割合		日 平均値が 0.06ppm を超えた 日数とその割合		日 平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下 の日数と その割合		日平均値の 年間 98%値	98%評価 値による 日平均値 が0.06ppm を超えた 日数	有効測定 日数	測定時間	年平均値	1 時間値の 最高値	日平均値の 年間 98% 値	年平均値 NO ₂ NO+NO ₂
	日	時間	ppm	ppm	ppm	日	時間	ppm	Ppm	時間	%	時間	%	日	%	日	%	ppm	日	日	時間	ppm	ppm	ppm	%
杉谷内	365	8,672	0.001	0.069	0.002	365	8,672	0.005	0.048	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.012	0	365	8,672	0.006	0.109	0.015	87.4

ウ 光化学オキシダント

基準値を超過した日・時間（着色部）があります。

局名	昼間測定 日数	昼間測定 時間	昼間の 1 時間値の 年平均値	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた 日数と時間数		昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の 日数と時間数		昼間の 1 時間値の 最高値	昼間の日最 高 1 時間値 の年平均値
	日	時間	ppm	日	時間	日	時間	ppm	ppm
杉谷内	365	5,386	0.035	37	228	0	0	0.081	0.044

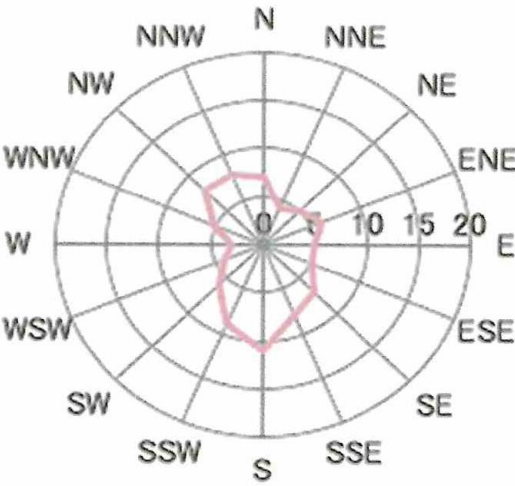
エ 浮遊粒子状物質

局名	有効測定 日数	測定時間	年平均値	1 時間値が 0.20mg/m ³ を 超えた時間数とその割合		日平均値が 0.10mg/m ³ を 超えた日数とその割合		1 時間値 の最高値	日平均値の 2 % 除外値	日平均値が 0.10mg/m ³ を超え た日が 2 日以上連 続したことの有無	環境基準の 長期的評価による 日平均値が 0.10mg/m ³ を超え た日数
	日	時間	mg/m ³	時間	%	日	%	mg/m ³	mg/m ³	有×・無○	日
杉谷内	357	8,412	0.010	0	0.0	0	0.0	0.090	0.023	○	0

オ 年間風配図

期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月 時間帯：1 時～24 時

階級：0.0～10.0(m/s) C:Calm % K:欠測 % ※数値は参考値扱い



杉谷内

C:1.6、K:0.2

② 月間値

ア 二酸化硫黄

局 名	項 目		令和 4 年									令和 5 年		
			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
杉谷内	有効測定日数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	30	31	28	31
	測定時間	時間	714	734	714	738	734	712	734	709	724	734	663	736
	月平均値	ppm	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数	時間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	日平均値が 0.04ppm を超えた日数	日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1 時間値の最高値	ppm	0.005	0.004	0.002	0.001	0.002	0.002	0.002	0.002	0.004	0.002	0.003	0.003
	日平均値の最高値	ppm	0.001	0.001	0.001	0.000	0.001	0.000	0.001	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001

イ 二酸化窒素

局名	項目		令和3年									令和4年		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
杉谷内	有効測定日数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
	測定時間	時間	714	736	714	738	737	713	736	712	734	736	666	736
	月平均値	ppm	0.006	0.005	0.003	0.004	0.003	0.004	0.005	0.006	0.005	0.005	0.007	0.006
	1時間値の最高値	ppm	0.029	0.025	0.020	0.031	0.033	0.027	0.031	0.040	0.038	0.031	0.043	0.048
	日平均値の最高値	ppm	0.013	0.009	0.005	0.006	0.007	0.007	0.008	0.015	0.017	0.013	0.015	0.014
	1時間値が0.2ppmを超えた時間数	時間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1時間値が0.1ppm以上0.2ppm以下の時間数	時間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	日平均値が0.06ppmを超えた日数	日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数	日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ウ 光化学オキシダント

春～夏にかけて、基準値を超過する傾向があります。(着色部が基準値超過)

局名	項目		令和4年									令和5年		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
杉谷内	昼間測定日数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
	昼間測定時間	時	446	451	437	461	460	446	460	442	447	460	416	460
	昼間の1時間値の月平均値	ppm	0.044	0.051	0.037	0.029	0.028	0.028	0.028	0.027	0.031	0.034	0.037	0.042
	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数	日	7	17	6	0	0	0	0	0	0	0	0	7
		時	45	126	23	0	0	0	0	0	0	0	0	34
	昼間の1時間値が0.12ppm以上となった日数と時間数	日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	昼間の1時間値の最高値	ppm	0.073	0.081	0.068	0.055	0.048	0.058	0.056	0.051	0.044	0.049	0.054	0.081
	昼間の日最高1時間値の月平均値	ppm	0.055	0.062	0.045	0.040	0.038	0.039	0.039	0.039	0.038	0.040	0.045	0.054

エ 浮遊粒子状物質

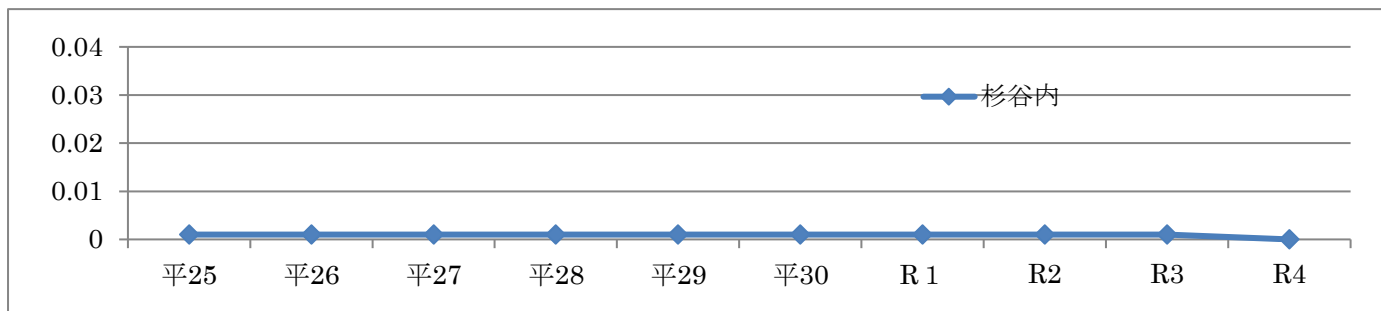
局名	項目		令和4年									令和5年		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
杉谷内	有効測定日数	日	30	29	30	31	30	30	31	30	31	31	28	31
	測定時間	時間	710	702	695	718	692	704	717	680	680	720	654	740
	月平均値	mg/m ³	0.011	0.011	0.012	0.011	0.012	0.011	0.007	0.008	0.005	0.006	0.009	0.017
	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数	時間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数	日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1時間値の最高値	mg/m ³	0.063	0.041	0.051	0.052	0.049	0.051	0.038	0.054	0.037	0.036	0.040	0.090
	日平均値の最高値	mg/m ³	0.023	0.020	0.022	0.020	0.021	0.016	0.014	0.017	0.009	0.014	0.019	0.044

③ 経年変化

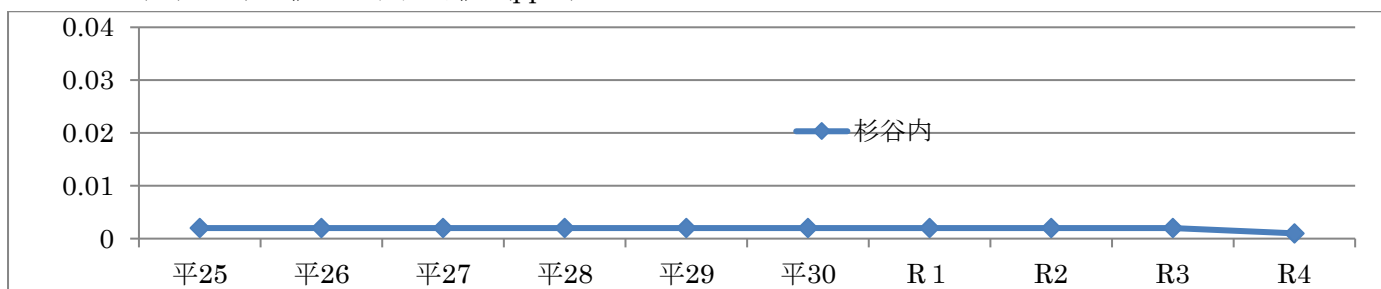
全ての項目において、ほぼ横ばいの傾向です。

ア 二酸化硫黄

(ア) 年平均値 (ppm)

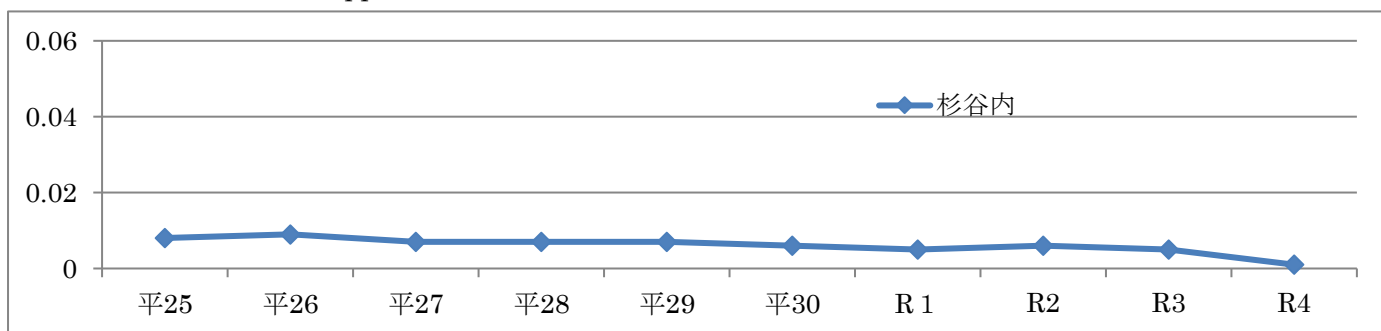


(イ) 日平均値の2%除外値 (ppm)

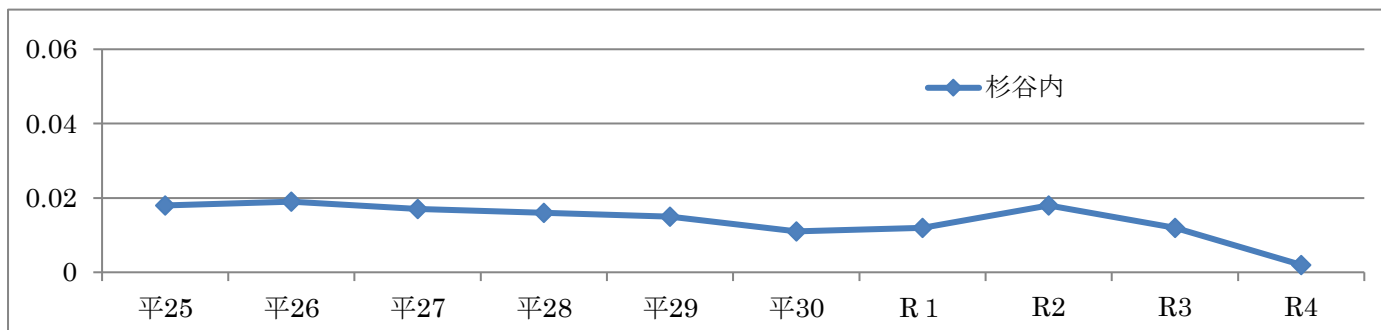


イ 二酸化窒素

(ア) 年平均値 (ppm)



(イ) 日平均値の年間98%値 (ppm)

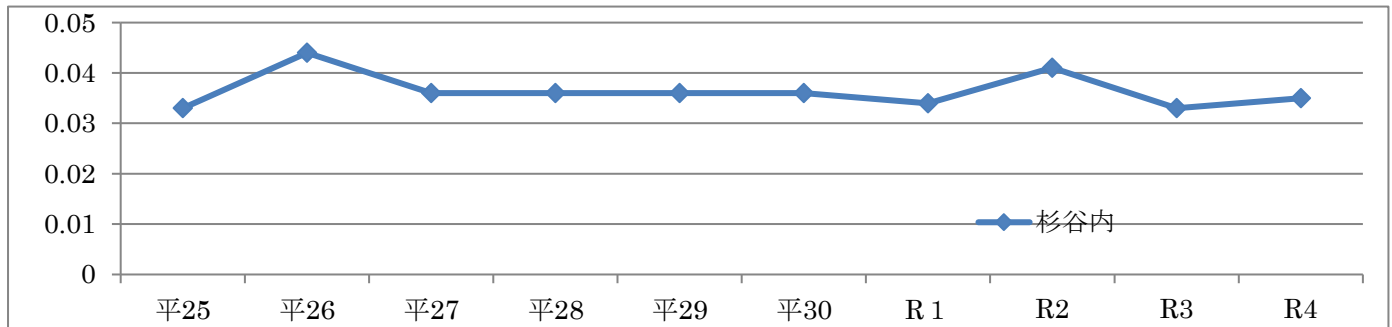


ウ 光化学オキシダント

継続的に基準値を超過する状況が続いています。

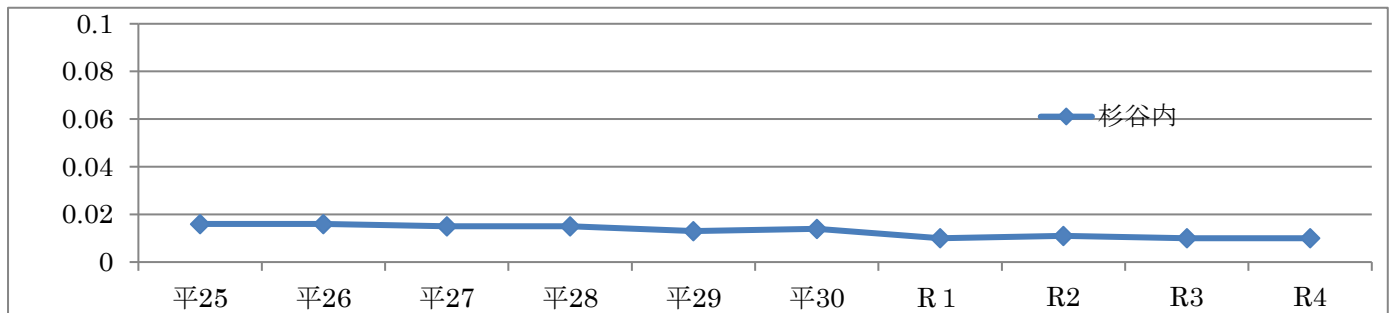
	(ア) 昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数									
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
杉谷内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(イ) 昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数									
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
杉谷内	38	45	48	43	46	47	26	24	8	37

(ウ) 昼間の1時間値の年平均値 (ppm)

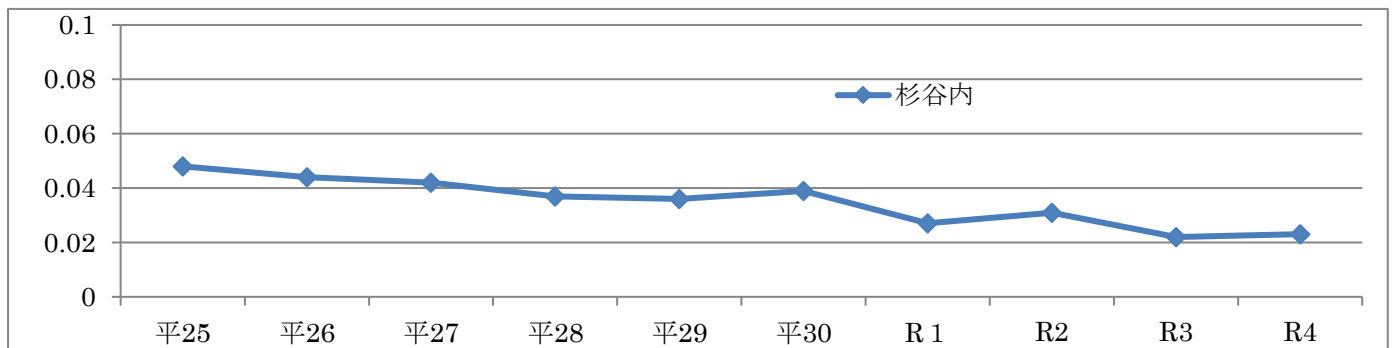


エ 浮遊粒子状物質

(ア) 年平均値 (mg/m³)



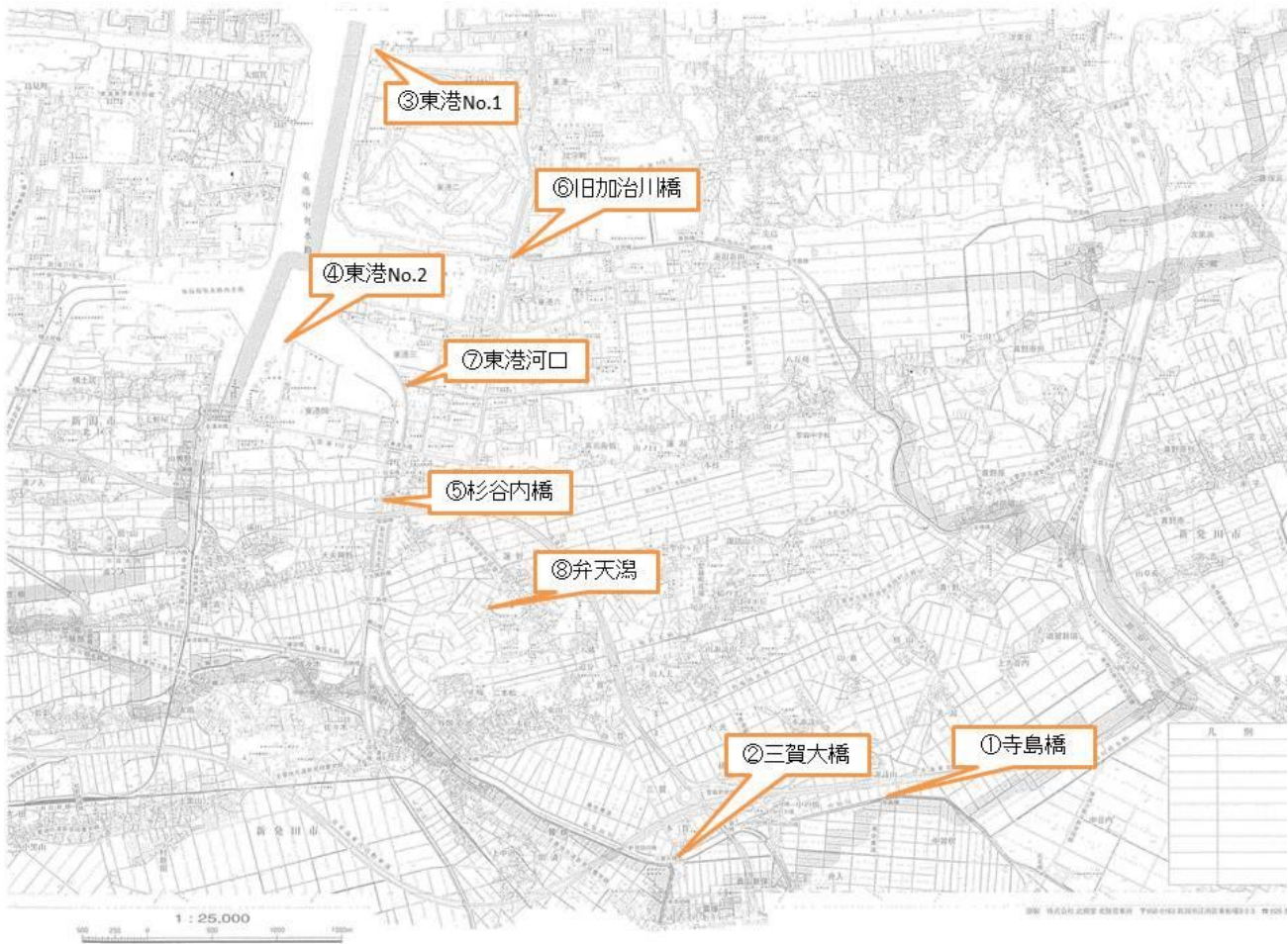
(イ) 日平均値の2%除外値 (mg/m³)



3 水環境

(1) 水質調査箇所

聖籠町内では、海域や中小河川等の計 8 ヶ所で水質調査を実施しています。

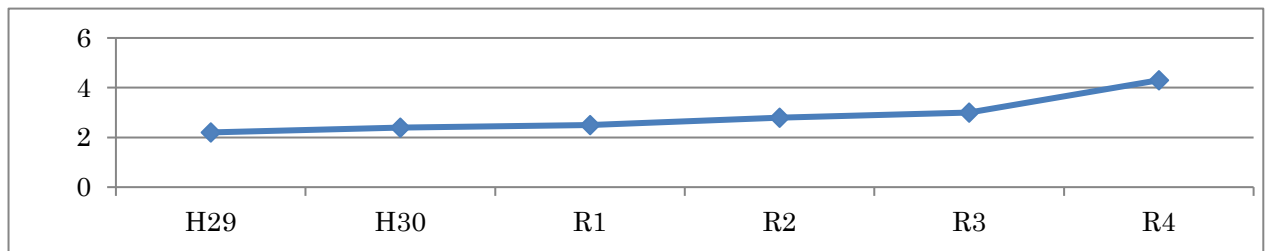


(2) 水質調査結果

① 中小河川等の水質 (着色部が基準値抵触)

ア) 中田川

・中田川の BOD 平均値経年変化(mg/l)



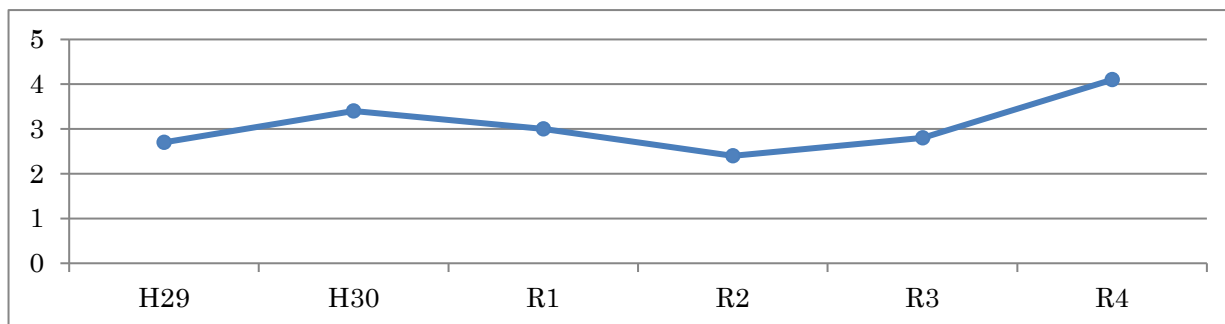
・測定結果：寺島橋

単位：BOD mg/l、大腸菌群数 MPN/100ml、糞便性大腸菌個/100ml

項 目	年平均	最小～最大	抵触回数	環境基準 (一)
PH	6.8	6.6～7.1	—	—
BOD	4.3	2.2～6.1	—	—
大腸菌群数	1,030	190～1,900	—	—
糞便性大腸菌	2,763	280～6,200	—	—

イ) 新発田川

・新発田川の BOD 平均値経年変化(mg/l)



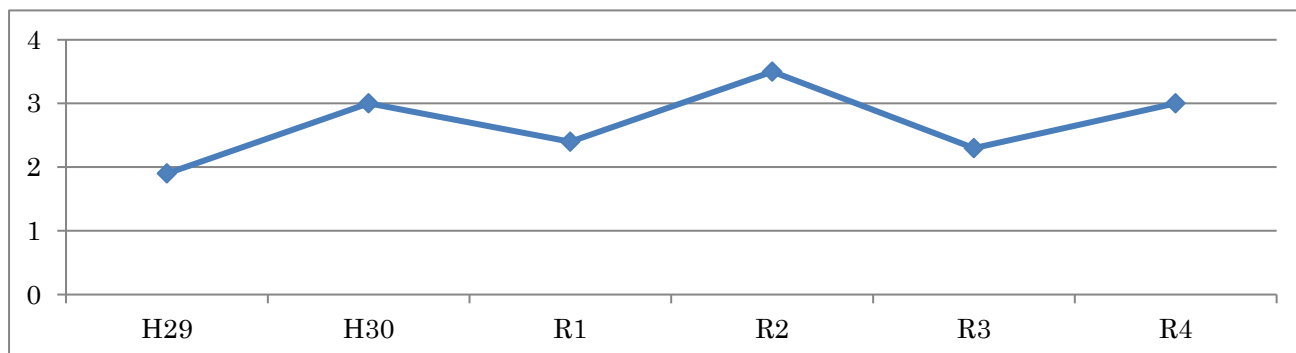
・測定結果：三賀大橋

単位：BOD mg/l、大腸菌群数 MPN/100ml、糞便性大腸菌個/100ml

項 目	年平均	最小～最大	抵触回数	環境基準 (C)
pH	6.8	6.6～7.1	0/6 回	6.5～8.5
BOD	4.1	2.3～7.1	1/6 回	5 以下
大腸菌群数	2,123	340～7,800	—	—
糞便性大腸菌	3,910	560～11,000	—	—

ウ) 新発田川放水路

・新発田川放水路の BOD 平均値経年変化(mg/l)



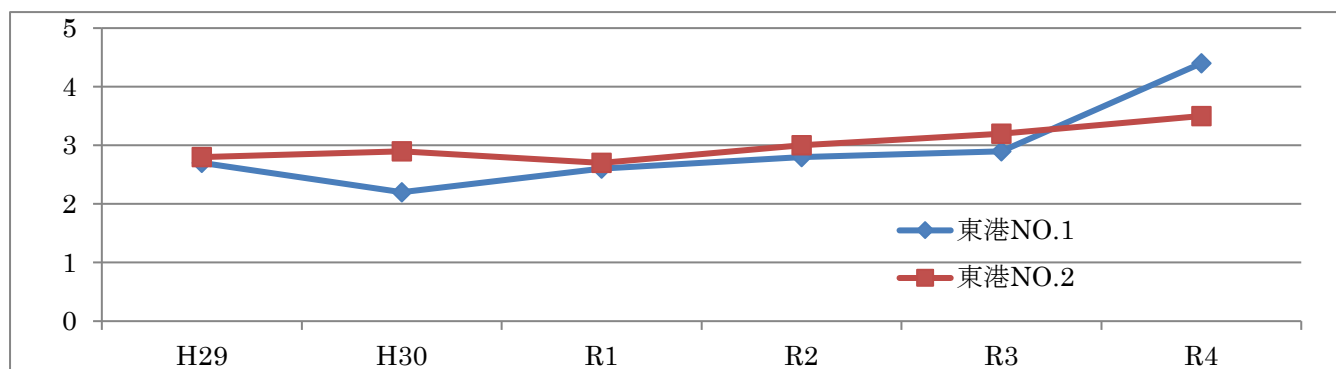
・測定結果：杉谷内橋

単位：BOD、DO、SS、総窒素、総リン mg/l、大腸菌群数 MPN/100ml、糞便性大腸菌個/100ml

項 目	年平均	最小～最大	抵触回数	環境基準 (—)
pH	6.8	6.6～7.2	—	—
BOD	3.0	2.3～3.6	—	—
DO	8.3	6.4～12.0	—	—
SS	7.7	5.6～10.0	—	—
大腸菌群数	529	59～1,700	—	—
糞便性大腸菌	1,984	65～8,000	—	—

エ) 東港海域

(東港海域の COD 平均値経年変化) (mg/l)



(測定結果：東港 No.1)

単位：COD、DO、総窒素、総リン、ノルマルヘキサン mg/l、大腸菌群数 MPN/100ml、糞便性大腸菌個/100ml

項 目	年平均	最小～最大	抵触回数	環境基準 (B)
pH	8.4	8.2～8.6	1/2 回	7.8～8.3
COD	4.4	2.9～5.8	1/2 回	3 以下
DO	8.3	7.5～9.1	0/2 回	5 以上
大腸菌群数	10	1～18	—	—
糞便性大腸菌	17	11～23	—	—
全窒素	0.06	0.05～0.07	—	—
全リン	0.034	0.030～0.038	—	—
ノルマルヘキサン	検出しない	—	0/2 回	検出しない

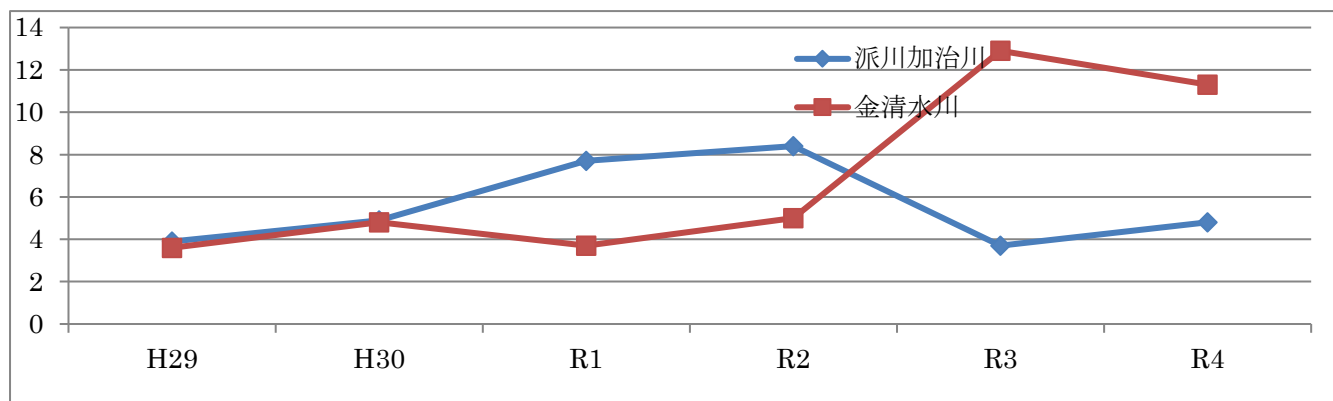
(測定結果：東港 No.2)

単位：COD、DO、総窒素、総リン、ノルマルヘキサン mg/l、大腸菌群数 MPN/100ml、糞便性大腸菌個/100ml

項 目	年平均	最小～最大	抵触回数	環境基準 (B)
pH	8.4	8.2～8.5	1/2 回	7.8～8.3
COD	3.5	2.4～4.6	1/2 回	3 以下
DO	8.9	7.7～10.0	0/2 回	5 以上
大腸菌群数	1	0～1	—	—
糞便性大腸菌	23	0～45	—	—
全窒素	0.28	0.22～0.34	—	—
全リン	0.033	0.032～0.034	—	—
ノルマルヘキサン	検出しない	—	0/2 回	検出しない

オ) その他の河川

(派川加治川及び金清水川の BOD 平均値の経年変化) (mg/l)



(測定結果：派川加治川)

単位：BOD、SS、フッ素、銅、ノルマルヘキサン mg/l

項 目	年平均	最小～最大	抵触回数	環境基準 (一)
pH	7.2	7.1～7.2	—	—
BOD	4.8	4.7～4.8	—	—
SS	8.0	6.0～9.0	—	—
フッ素	1.25	0.8～1.7	3/4 回	環境基準 0.8
銅	0.02	0.01～0.02	—	—
ノルマルヘキサン	検出しない	検出しない	—	—

(測定結果：金清水川)

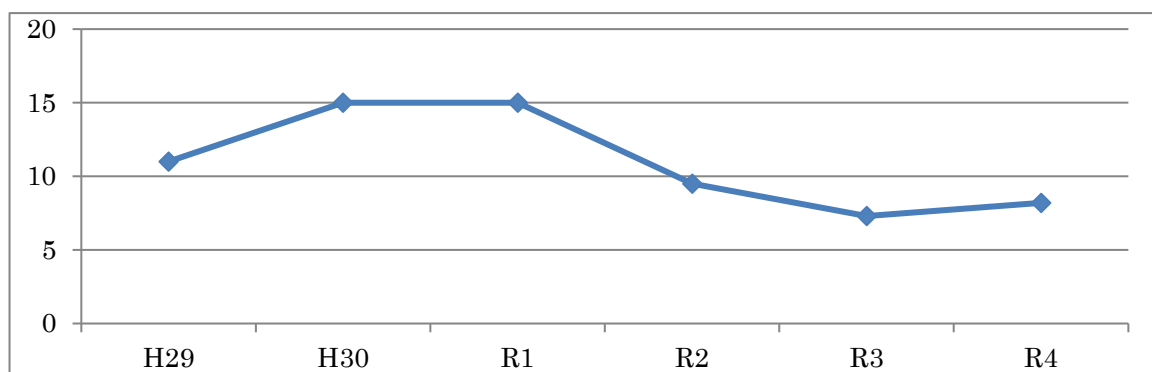
単位：BOD、SS、フッ素、銅、ノルマルヘキサン mg/l

項 目	年平均	最小～最大	抵触回数	環境基準 (一)
pH	7.0	6.7～7.2	—	—
BOD	11.3	4.8～23.0	1/4 回	環境基準 10.0
SS	17.8	8.0～34.0	—	—
総クロム	検出しない	検出しない	—	—
銅	0.25	0.21～0.29	—	—
ノルマルヘキサン	検出しない	検出しない	—	—

② 弁天潟の水質

イ) 調査結果

(COD の経年変化) (mg/l)



(測定結果)

BOD、SS、COD、DO、全窒素、全リン、ノルマルヘキサン mg/l、大腸菌群数 MPN/100ml

項目	PH	BOD	SS	大腸菌群数	COD	DO	全窒素	全リン	n-ヘキサン	透視度
7 月	6.4	3.6	9	46	8.2	4.1	0.6	0.067	1 未 満	30 以上
B 類型 (湖沼)	6.5～ 8.5	—	15 以下	—	5 以下	5 以上	—	—	—	—

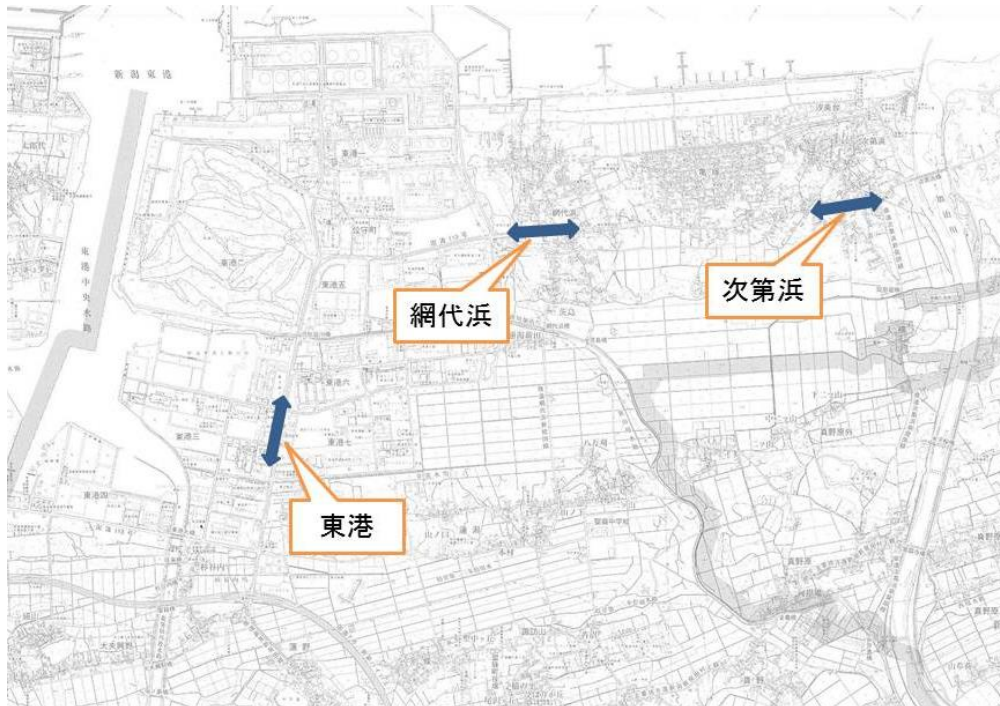
※ 弁天潟は環境基準に係る類型指定はありませんが、参考として湖沼の B 類型基準値と比較しております。

4 騒音

(1) 騒音調査箇所

町では、町内 3 箇所において自動車交通に伴う騒音調査を実施しています。

調査実施箇所図



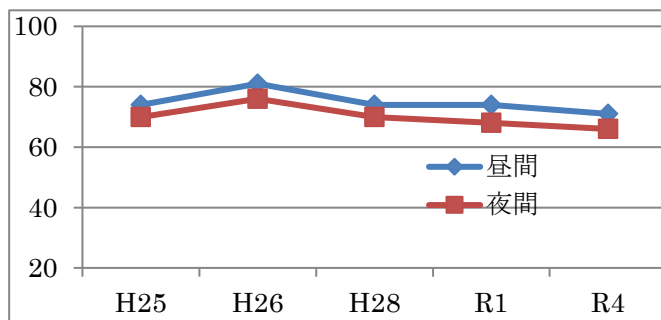
(2) 調査結果

聖籠町内では、大型車等の交通量が多いため、例年環境基準を超過している状態にあります。

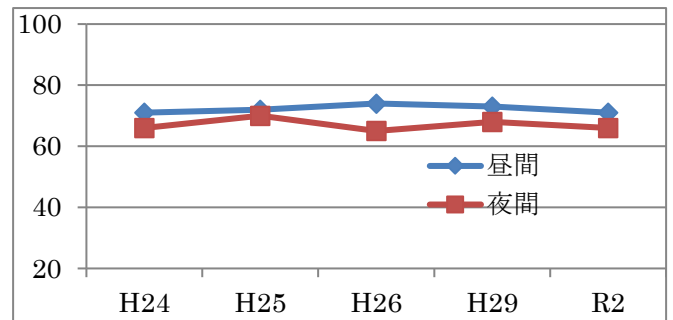
平成 27 年度からは各測定箇所について 3 年に 1 回の測定とします。(令和 4 年度は網代浜地区を測定)

① 騒音の推移 (単位: dB LAeq)

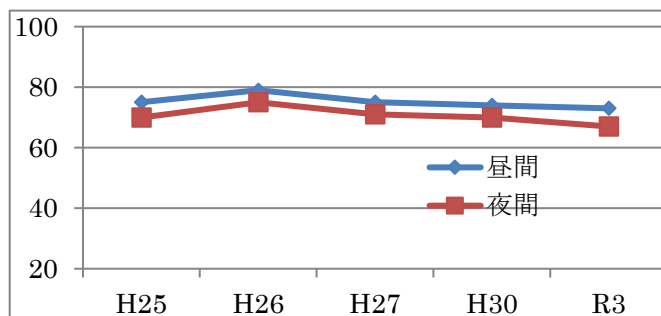
ア 網代浜 (基準値 昼間: 65 dB 夜間: 60 dB)



イ 次第浜 (基準値 昼間: 65 dB 夜間: 60 dB)



ウ 東港 (基準値 昼間: 65 dB 夜間: 60 dB)



5 廃棄物

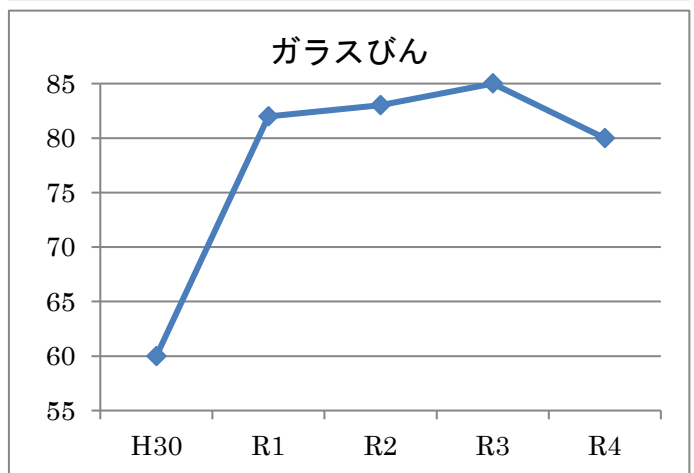
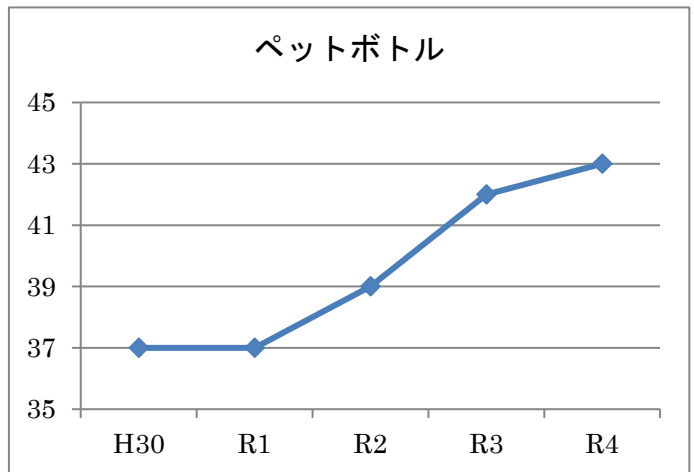
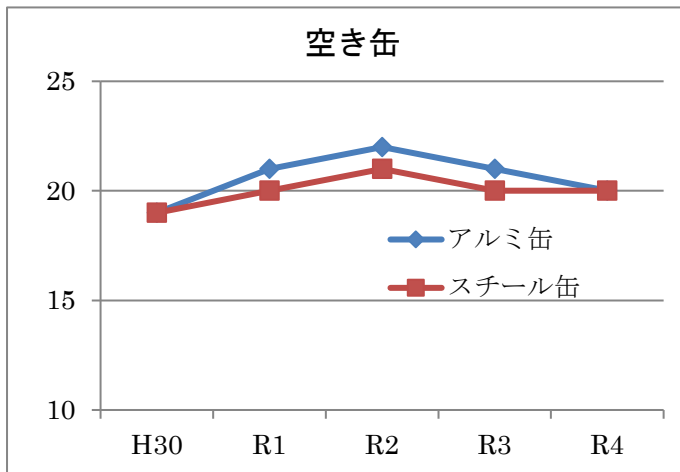
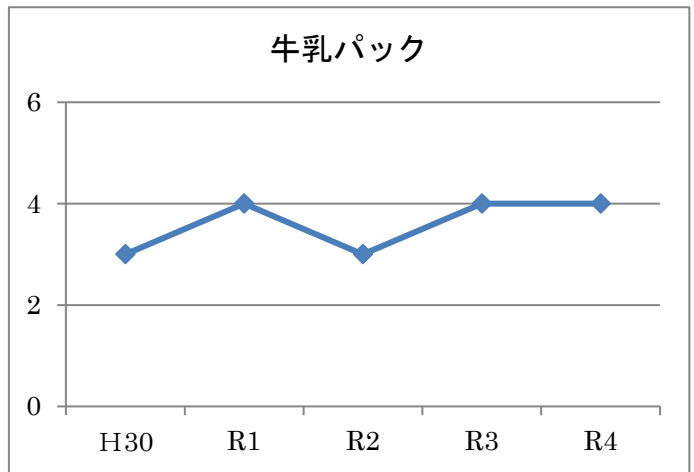
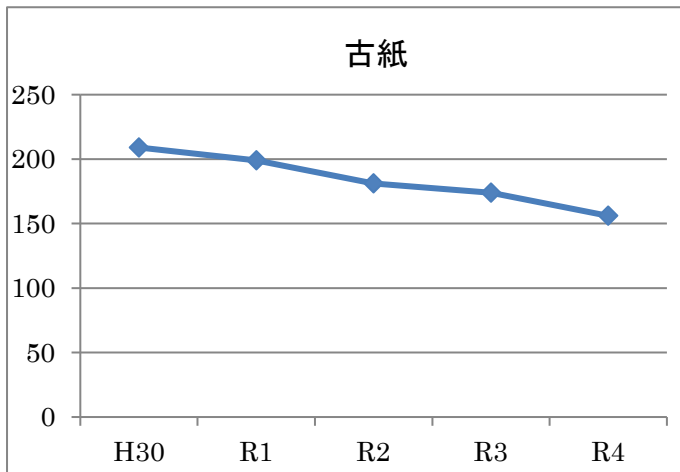
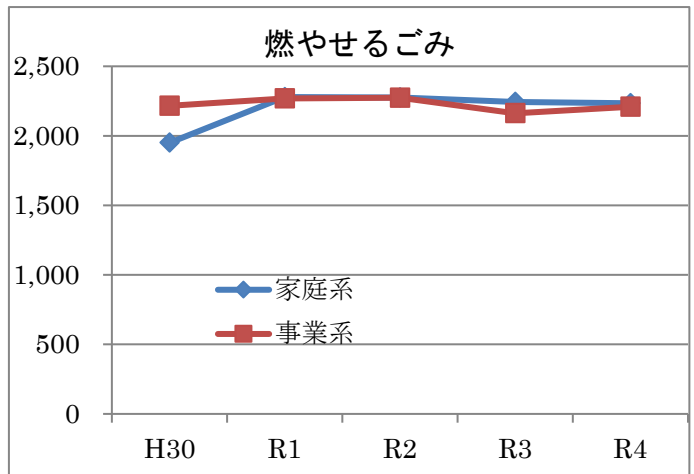
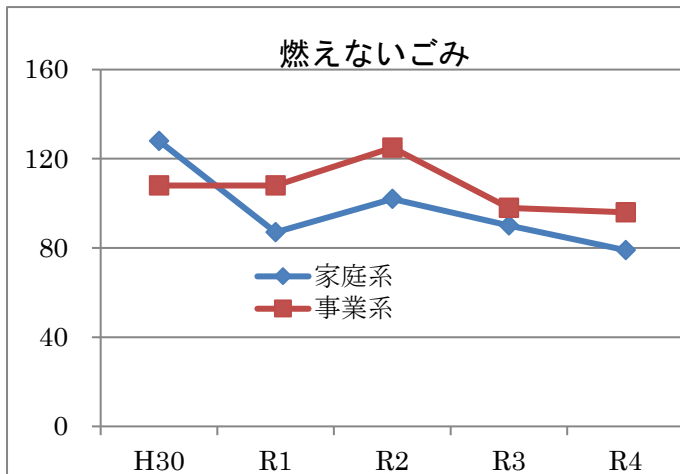
(1) 町のごみ処理の推移

年度	内 容
平成 10 年度	可燃ごみ指定袋制導入 アルミ缶、ガラスびん、ペットボトル、古紙回収開始
平成 15 年度	可燃ごみ指定袋の小袋導入 プラスチック容器包装収集開始
平成 18 年度	スチール缶収集開始（アルミ缶と一緒に回収）
平成 23 年度	山倉小学校区で生ごみ収集開始
平成 24 年度	全地区で生ごみ収集開始
平成 28 年度	生ごみ袋販売開始 可燃ごみ指定袋 2 割配布削減(H28.3 月配布分より)
平成 30 年度	生ごみ収集事業終了(H31.3 末)

(2) ごみ収集量の推移

区 分		収 集 量				
		H30	R1	R2	R3	R4
燃やせるごみ	家庭系	1,950t	2,279t	2,276t	2,243t	2,235t
	事業系	2,216t	2,270t	2,274t	2,162t	2,210t
燃えないごみ	家庭系	128t	87t	102t	90t	79t
	事業系	108t	108t	125t	98t	96t
資源ごみ	家庭系	464t	481t	473t	470t	448t
	古紙	210t	199t	181t	174t	156t
	牛乳パック	3t	4t	3t	4t	4t
	ペットボトル	37t	37t	39t	42t	43t
	アルミ缶	19t	21t	22t	21t	20t
	スチール缶	18t	20t	21t	20t	20t
	ガラスびん	60t	82t	83t	85t	80t
	プラスチック	117t	118t	124t	124t	125t
計	家庭系	2,542t	2,847t	2,851t	2,803t	2,762t
	事業系	2,324t	2,378t	2,399t	2,260t	2,306t
	計	4,866t	5,225t	5,250t	5,063t	5,068t

(単位：トン)



(3) ごみ処理経費の推移

年度	ごみ処理量(家庭系)			ごみ関係 決算額合計	一日当りのごみ		一人当りのごみ		処理量(kg) に対する経 費	一人一日 当りのご み量(g)	人 口 (年度末)
	可燃物 (t)	不燃物 (t)	合計 (t)		処理量(kg)	処理費	処理量(kg)	処理費			
平成元	2,085	522	2,607	59,561,961	7,142	163,183	205	4,690	22.8	562	12,701
2	2,165	513	2,678	71,797,704	7,337	196,706	212	5,677	26.8	580	12,647
3	2,573	547	3,120	170,397,735	8,548	466,843	247	13,485	54.6	676	12,636
4	2,742	540	3,282	188,581,166	8,992	516,661	260	14,967	57.5	714	12,600
5	2,624	466	3,090	185,176,505	8,466	507,333	244	14,637	59.9	669	12,651
6	2,791	480	3,271	173,199,198	8,962	474,518	251	13,308	52.9	689	13,015
7	2,664	495	3,159	150,066,380	8,655	411,141	239	11,333	47.5	654	13,242
8	2,808	547	3,355	152,118,499	9,192	416,763	251	11,400	45.3	689	13,344
9	2,714	507	3,221	226,887,036	8,825	621,608	240	16,876	70.4	656	13,444
10	1,935	395	2,330	311,237,884	6,384	852,707	172	22,985	133.6	471	13,541
11	2,065	385	2,450	268,970,234	6,694	734,891	179	19,698	109.8	490	13,655
12	2,215	494	2,709	281,656,739	7,422	771,662	197	20,515	104.0	541	13,729
13	2,299	363	2,662	310,282,768	7,293	850,090	195	22,698	116.6	534	13,670
14	2,389	372	2,761	327,633,055	7,564	897,625	201	23,845	118.7	551	13,740
15	2,346	328	2,674	327,760,958	7,306	895,522	193	23,657	122.6	527	13,855
16	2,300	318	2,618	341,260,501	7,173	934,960	189	24,579	130.4	517	13,884
17	2,415	302	2,717	364,637,660	7,444	999,007	195	26,235	134.2	536	13,899
18	2,364	274	2,638	347,810,424	7,227	952,905	190	25,046	131.8	520	13,887
19	2,390	242	2,632	325,758,759	7,191	890,051	190	23,485	123.8	518	13,871
20	2,375	206	2,581	298,351,703	7,071	817,402	184	21,302	115.6	505	14,006
21	2,390	189	2,579	290,742,620	7,066	796,555	183	20,686	112.7	503	14,055
22	2,325	180	2,505	374,996,804	6,863	1,027,389	177	26,543	149.7	486	14,128
23	2,308	167	2,475	364,932,949	6,762	997,085	175	25,812	147.4	478	14,138
24	2,048	172	2,220	286,650,349	6,082	785,343	156	20,129	129.1	427	14,241
25	2,030	161	2,191	266,328,153	6,003	729,666	154	18,717	121.6	422	14,229
26	2,020	150	2,170	313,088,531	5,945	857,777	152	21,914	144.3	416	14,287
27	2,041	149	2,190	270,153,987	5,984	738,126	154	18,961	123.4	420	14,248
28	1,984	138	2,122	267,090,823	5,814	731,756	149	18,804	125.9	409	14,204
29	1,958	130	2,088	273,283,744	5,721	748,723	146	19,123	130.9	400	14,291
30	1,950	128	2,078	278,585,485	5,693	763,248	145	19,491	134.4	397	14,293
令和元	2,279	87	2,366	233,902,248	6,482	640,828	166	16,431	99.0	455	14,235
令和2	2,276	102	2,378	233,453,248	6,515	639,598	168	16,528	98.4	461	14,124
令和3	2,243	90	2,333	238,243,244	6,392	652,721	166	16,923	101.9	454	14,078
令和4	2,235	79	2,314	230,174,945	6,340	630,616	164	16,355	99.5	450	14,074

ごみ処理経費は、平成9年度から大幅に増えています。これはリサイクル収集の実施に伴う施設整備や運搬経費によるものが主な要因となっています。

平成24年度は生ごみの全町分別収集が開始されたため、可燃ごみが大幅に減少しました。また、収集した生ごみは生ごみ堆肥として平成25年度から販売を開始しました。

平成30年度末をもって生ごみ収集事業は終了となったことから、生ごみ堆肥の販売も終了となりました。

年度	主要な動き	内 容
H17	生ごみリサイクル事業の検討	ビニールハウス、処理機 1 台 (200kg/日)
	生ごみ処理施設の整備	
H18	モデル事業開始	
	バイオマスタウン構想策定	
H19	モデル事業の拡大	
H21		
H22	生ごみ堆肥化施設の建設	
H23	山倉小学校全域で生ごみ収集開始 生ごみ処理機 2 台追加導入	
H24	町内全域で生ごみ収集開始	
H27	生ごみ堆肥化施設の運営委託開始	
H28	生ごみ専用袋販売開始	委託先：(特非)環境美化ネットせいろう
H30	生ごみ収集事業終了(H31.3 末)	

(5) 廃棄物処理施設

ごみの種類	処理施設	備 考
可燃ごみ	豊栄環境センター	プラスチック、ペットボトルは、中間処理後、容器包装リサイクル協会指定ルートで処理
不燃ごみ		
プラスチック、ペットボトル		
古紙、空き缶、ガラスびん	民間リサイクル施設	

(6) し尿・浄化槽汚泥処理

し尿等の処理は、平成 25 年度までは新発田地域広域事務組合の中部衛生センター（次第浜地内）にて行っていましたが、し尿等の搬入量の減少や施設老朽化に伴い、平成 26 年度からは新発田市に処理事務を委託し、新発田市中曽根地内の「クリーンアップいなほ」にて希釈後、公共下水道へ投入しています。

